

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 30 年 2 月 15 日 午後用

## 第 69 回 獣 医 師 国 家 試 験

### 実 地 試 験 問 題 (D)

#### 注 意 事 項

1. 問題数は 60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、  
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……   

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの  
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特  
に注意すること。



**課題1 次の文を読み、問1、問2に答えよ。**

猫、雑種、避妊雌、12歳齢。1年以上にわたる便秘と最近5日間の食欲不振を主訴に来院。腹部触診で硬い筒状構造物が触知された。神経学的検査では異常がなく、直腸検査でも特記すべき異常は認められなかった。〔図1-A, B〕は腹部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D  
図 1-A, B

**問1 最も疑われる疾患はどれか。**

1. 巨大結腸症
2. 腸内異物
3. 腸重積
4. 大腸腫瘍
5. 直腸憩室

**問2 本症例の病態を長期的に改善する目的で行われる手術はどれか。**

1. 結腸切開術
2. 直腸引抜術（直腸切除術）
3. 骨盤腔拡大術
4. 下行結腸部分切除術
5. 結腸重全摘術

**課題 2** 次の文を読み、問 3、問 4 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。2か月前から赤色尿を排泄していたが、最近消瘦が顕著で元気がなく、背弯姿勢を呈するようになった。〔図 2 - A〕は自然排泄尿の尿沈渣塗抹像（ギムザ染色、× 1,000）、〔図 2 - B〕は血液検査結果である。

別冊 D 図 2 - A, B
--------------------

**問 3** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 水中毒
2. 産褥性血色素尿症
3. 尿石症
4. 腎盂腎炎
5. アミロイド症

**問 4** 本疾患の原因と考えられるのはどれか。

1. 過剰な飲水
2. 低リン飼料
3. 高リン高カルシウム飼料
4. 細菌感染
5. 膀胱粘膜過形成

課題3 次の文を読み、問5、問6に答えよ。

〔図3〕のア～オは過去に化学物質による重篤な健康危害が発生した地域が存在する県を示している。

別冊D

図3

問5 主として同じ水質汚濁物質が問題となった2つの県はどれか。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問6 主として問題となった物質はどれか。

- 1. メチル水銀
- 2. ポリ塩化ビフェニル
- 3. カドミウム
- 4. 鉛
- 5. 亜ヒ酸

**課題 4** 次の文を読み、問 7、問 8 に答えよ。

犬、ゴールデン・レトリバー、去勢雄、8 歳齢。散歩中に突然虚脱したとのことで緊急来院。聴診では心音を聴取できなかったが、呼吸音は正常であった。胸部 X 線検査では顕著な心陰影の拡大があり、心エコー図検査で重度の心嚢水貯留を認めた。〔図 4〕は心電図（II 誘導）である。

別冊 D

図 4

**問 7** この心電図の診断として適切なのはどれか。

1. 心房細動
2. 電氣的交互脈
3. 心室性期外収縮
4. 上室性期外収縮
5. 心室細動

**問 8** この症例に対する初期治療として最も適切なのはどれか。

1. フロセミド投与
2. ピモベンダン投与
3. リドカイン投与
4. 胸腔穿刺
5. 心膜穿刺

課題 5 次の文を読み、問 9、問 10 に答えよ。

死亡したニジマスから採取した腎臓組織を孔径  $0.45 \mu\text{m}$  のフィルターを用いて濾過し、ニジマス由来培養細胞 RTG-2 に接種したところ、〔図 5 - A〕のような顕微鏡像が得られた。なお、〔図 5 - B〕は陰性対照である。

別冊 D  
図 5 - A, B

問 9 最も疑われる疾患はどれか。

1. せつそう病
2. 細菌性冷水病
3. 伝染性造血器壊死症
4. イクチオホヌス症
5. 白点病

問 10 本疾患で認められる病態として適切なのはどれか。

- a 体側の V 字状の出血
- b 鰓弁の棍棒化
- c 胃の著しい拡張
- d 腎臓の白色結節
- e 狂奔遊泳行動

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題 6 次の文を読み、問 11、問 12 に答えよ。

犬、トイ・プードル、雌、7 か月齢。椅子から飛び降りた際にキャンとなき、以後うずくまって立ち上がらないとのことで来院。触診で左前腕部付近の激しい疼痛を認めた。〔図 6 - A, B〕は、左前肢の単純 X 線像（A：頭尾側像、B：側方像）である。

別冊 D  
図 6 - A, B

問11 本症例の骨折は主にどの応力によるものと考えられるか。

- a 圧迫
- b 屈曲
- c せん断
- d 牽引
- e 捻転

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

問12 本症例の骨折に対する固定法として適当なのはどれか。

- 1. 髄内ピン法
- 2. サークラージワイヤー法
- 3. 骨プレート法
- 4. インターロッキングネイル法
- 5. 副子固定法



課題7 次の文を読み、問13、問14に答えよ。

〔図7〕の①～⑧は衛生的な搾乳をするための一連の手順を示したものである。

別冊D

図7

問13 〔図7〕の「ア」に要する時間として最も適当なのはどれか。

1. 1分～1分半
2. 3分～4分半
3. 5分～6分半
4. 7分～8分半
5. 9分以上

問14 〔図7〕に示す各操作に関する記述として正しいのはどれか。

- a ②の後に行うプレディッピングにはクレゾールが汎用される。
- b ③では45～50℃の10%次亜塩素酸ナトリウム溶液を用いる。
- c ④では乳頭を乾燥させずにやや湿潤させた状態に保つのがよい。
- d ⑦では真空を遮断してユニットの自然落下に合わせて離脱させる。
- e ⑧ではヨード剤を用いるのが一般的である。

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

**課題 8** 次の文を読み、問 15、問 16 に答えよ。

猫、パルシャ、去勢雄、6 歳齢。慢性的に鼻汁が認められ、最近顔が腫れてきたとの主訴で来院。〔図 8 - A〕は頭部造影 CT 横断像、〔図 8 - B〕は鼻腔内生検組織のスタンプ標本（ギムザ染色、× 1,000）である。

別冊 D  
図 8 - A, B

**問15** 最も疑われる疾患はどれか。

1. リンパ腫
2. 鼻腔腺癌
3. 真菌感染症
4. 細菌感染症
5. 肥満細胞腫

**問16** 本疾患に対する治療薬として最も適切なのはどれか。

1. イトラコナゾール
2. テトラサイクリン
3. セファゾリン
4. ドキソルビシン
5. カルボプラチン

課題9 次の文を読み、問17、問18に答えよ。

〔図9-A, B〕はある感染症の2種類の検査法を実施した結果である。

別冊 D 図9-A, B
-----------------

問17 AとBの組合せとして正しいのはどれか。

- | A            | B       |
|--------------|---------|
| 1. CAMPテスト   | 莢膜染色    |
| 2. アスコリ反応    | 莢膜染色    |
| 3. コアグララーゼ試験 | ファージテスト |
| 4. ファージテスト   | パールテスト  |
| 5. アスコリ反応    | パールテスト  |

問18 本疾患に対する対応方針として適切なのはどれか。

1. 無莢膜変異株を用いた不活化ワクチンにより予防する。
2. 「家畜伝染病予防法」に基づく届出伝染病として家畜保健衛生所に届け出る。
3. 消毒にはベンザルコニウム塩酸塩を用いる。
4. 治療することはほとんどない。
5. 速やかに食肉衛生検査所で病理解剖する。

課題10 次の文を読み、問 19、問 20 に答えよ。

馬、サラブレッド種、競走用馬、雄、3 歳齢。左前肢に重度の支柱跛行を認めた。  
〔図 10〕は肢端部 X 線外内側像である。

別冊 D

図 10

問19 最も疑われる疾患はどれか。

1. 末節骨（蹄骨）骨折
2. 蹄葉炎
3. 白線裂
4. 遠位種子骨骨折
5. 蹄軟骨化骨症

問20 本疾患の原因として適切でないのはどれか。

1. 炭水化物の過剰摂取
2. コルチコステロイドの過剰投与
3. 針傷に伴う蹄の化膿
4. 対側肢の骨折時の過大負重
5. *Treponema* 感染

課題11 次の文を読み、問 21、問 22 に答えよ。

犬、ダルメシアン、去勢雄、2歳齢。1か月ほど前から続く血尿および頻尿を主訴に来院。身体検査では特筆すべき異常はなかった。尿検査を実施したところ、潜血および蛋白反応が陽性で、沈渣に〔図 11〕に示す結晶が多数認められた。

別冊 D  
図 11

問21 この結晶はどれか。

1. リン酸アンモニウムマグネシウム
2. シュウ酸カルシウム
3. 尿酸塩
4. シスチン
5. キサンチン

問22 この結晶による尿路結石に関する説明として適切でないのはどれか。

1. ダルメシアンに好発する。
2. 通常、単純X線写真には写らない。
3. 門脈体循環シャントが原因になることがある。
4. 尿石の形成には細菌感染が深く関与している。
5. プリン体の少ない食事で予防する。

課題12 次の文を読み、問 23、問 24 に答えよ。

犬、雑種、未去勢雄、12 歳齢。肛門周囲の出血を主訴に来院。〔図 12 - A 〕は肛門周辺の肉眼像、〔図 12 - B 〕は腫瘤の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、× 400）である。

別冊 D  
図 12 - A, B

問23 最も疑われる疾患はどれか。

1. 肛門囊アポクリン腺癌
2. 悪性黒色腫
3. 扁平上皮癌
4. 肛門周囲瘻
5. 肛門周囲腺腫

問24 本疾患で病変部に対する外科処置とともに、再発防止のために一般的に行われる治療はどれか。

1. 去勢手術
2. 肛門囊切除
3. 抗癌剤投与
4. 免疫抑制剤投与
5. 抗菌薬投与

課題13 次の文を読み、問 25、問 26 に答えよ。

シマヘビ皮下から〔図 13〕の寄生虫を得た。

別冊 D 図 13
--------------

問25 これはなにか。

1. マンソン裂頭条虫 (*Spirometra erinaceieuropaei*) のプロセルコイド
2. マンソン裂頭条虫 (*Spirometra erinaceieuropaei*) のプレロセルコイド
3. 日本海裂頭条虫 (*Diphyllobothrium nihonkaiense*) のプロセルコイド
4. 日本海裂頭条虫 (*Diphyllobothrium nihonkaiense*) のプレロセルコイド
5. 有線条虫 (*Mesocestoides lineatus*) のテトラチリジウム

問26 これを猫が摂食した場合についての説明として正しいのはどれか。

1. 卵栓を持つ虫卵を排泄する。
2. 病原体が成虫になると 4 個の発達した吸盤を形成する。
3. 成虫の寄生部位は結腸である。
4. 成虫寄生を診断するには集卵法による糞便内虫卵検出が必須となる。
5. 駆虫には円葉目条虫感染時の 6 倍量 (30 mg/kg) のプラジクアンテルが必要となる。

課題14 次の文を読み、問 27、問 28 に答えよ。

町内会で食中毒が発生した。キノコ鍋が提供されていたので発症者 50 人と非発症者 50 人を対象に喫食状況を調査した結果が〔図 14 - A〕である。さらに調査したところ、キノコ鍋には〔図 14 - B〕が混入していたことが判明した。

別冊 D 図 14 - A, B
---------------------

問27 キノコ鍋の喫食と食中毒の関係を表すオッズ比はどれか。

1.  $(5 \div 45) \div (30 \div 20) \div 0.07$
2.  $(45 \times 5) \div (20 \times 30) \div 0.38$
3.  $(45 \div 50) \div (20 \div 50) = 2.25$
4.  $(45 \div 60) \div (5 \div 45) = 6.75$
5.  $(45 \div 5) \div (20 \div 30) = 13.5$

問28 〔図 14 - B〕のキノコの有毒成分による症状はどれか。

1. コレラ様の激しい胃腸炎症状
2. 末端紅痛症
3. めまい、運動失調、幻覚
4. 冷温感覚異常
5. 頭痛、眼底痛、顔面浮腫



**課題15** 次の文を読み、問 29、問 30 に答えよ。

犬、イタリアン・グレーハウンド、去勢雄、9歳齢。定期健診で著しい高蛋白質血症を認めたとのことで紹介来院。〔図 15 - A〕は初診時の血液検査結果、〔図 15 - B〕は血清蛋白分画像、〔図 15 - C〕は骨髓吸引生検像（ライトギムザ染色、×1,000）である。

別冊 D  
図 15 - A, B, C

**問29** 最も疑われる疾患はどれか。

1. リンパ性白血病
2. 骨髓瘍
3. リンパ球性骨髓炎
4. 多発性骨髓腫
5. 骨髓異型性症候群

**問30** 本症例における血清カルシウム濃度異常の原因として考慮すべきものはどれか。

- a PTH の分泌過剰
- b PTHrP の産生
- c 骨融解
- d ビタミン D<sub>3</sub> の産生過剰
- e カルシトニンの分泌過剰

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題16 次の文を読み、問 31、問 32 に答えよ。

ある疾患に罹患した馬を鑑定殺した。〔図 16 - A 〕は末梢血塗抹像（ベルリン青染色、× 1,000 ）、〔図 16 - B 〕は肝臓断面の肉眼像である。

別冊 D  
図 16 - A, B

問31 本疾患の原因病原体が属するウイルス科はどれか。

1. ラブドウイルス科
2. フラビウイルス科
3. ポックスウイルス科
4. レトロウイルス科
5. コロナウイルス科

問32 本疾患に関する記述として正しいのはどれか。

- a 発症馬のほとんどが急性型を示す。
- b 吸血昆虫が媒介する。
- c 回帰熱が認められる。
- d 出血性梗塞が認められることが多い。
- e ワクチン接種が行われている。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題17** 次の文を読み、問 33、問 34 に答えよ。

猫、雑種、未避妊雌、1歳齢。昨晚家を出て朝戻ってきたら呼吸が荒くなっていたとの主訴で来院。〔図 17 - A, B〕は腹部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。

別冊 D  
図 17 - A, B

**問33** 呼吸異常の原因として最も疑われる疾患はどれか。

1. 誤嚥性肺炎
2. 肺葉捻転
3. 気胸
4. 膿胸
5. 横隔膜ヘルニア

**問34** 本症例の手術・麻酔管理で考慮すべき点として適当なのはどれか。

- a 可能であれば2～3日間状態を安定化させてから手術を行う。
- b 100%酸素で十分酸素化を行ってから麻酔導入を行う。
- c 麻酔導入は吸入麻酔によるマスク導入が望ましい。
- d 麻酔維持中は自発呼吸による換気とする。
- e 手術終了前に高い気道内圧をかけて肺をできるだけ膨らませる。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題18** 次の文を読み、問 35、問 36 に答えよ。

犬、ミニチュア・ダックスフンド、未去勢雄、13 歳齢。元気や食欲に問題はないが、1 か月前から排便・排尿に時間がかかるようになったとの主訴で来院。直腸検査では左右対称で表面平滑にやわらかく腫大した前立腺が触知され、明らかな痛みは示さなかった。〔図 18 - A〕は血液検査結果、〔図 18 - B〕は腹部 X 線側方像、〔図 18 - C〕は前立腺の超音波検査像（横断像）である。

別冊 D  
図 18 - A, B, C

**問35** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 前立腺炎
2. 前立腺肥大症
3. 前立腺嚢胞
4. 前立腺膿瘍
5. 前立腺癌

**問36** 本疾患に対して行う治療として適当なのはどれか。

1. 去勢手術
2. 前立腺摘出術
3. 放射線療法
4. 利尿薬の投与
5. 抗菌薬の投与

課題19 次の文を読み、問 37、問 38 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、4歳齢。第二胃内の金属異物を疑い、それを除去するために立位で〔図 19〕の手術を行った。

別冊 D

図 19

問37 この手術はどれか。

1. 第一胃切開術
2. 第二胃切開術
3. 第三胃切開術
4. 第四胃切開術
5. 盲腸切開術

問38 この手術が適応になる他の疾患はどれか。

- a 急性第一胃アシドーシス
- b 第一胃食滞
- c 第四胃変位
- d 腸捻転
- e 盲腸拡張症

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

課題20 次の文を読み、問 39、問 40 に答えよ。

〔図 20〕は家畜糞尿汚水に関する、ある浄化方法を模式化している。

別冊 D 図 20
--------------

問39 この方法はどれか。

1. 曝気式ラグーン法
2. 回転円板法
3. 回分式活性汚泥法
4. 酸化溝法（オキシデーションディッチ法）
5. 沈降分離法

問40 この方法の特徴に関する記述として最も適当なのはどれか。

1. 物理化学的処理方法である。
2. 4つの工程を1日単位で繰り返す。
3. 反応槽が全部で4基必要である。
4. 汚水処理の効率が環境温度に左右されない。
5. 副産物の可燃性ガスが利用できる。

課題21 次の文を読み、問 41、問 42 に答えよ。

犬、スピッツ、雄、3歳齢。4日前からの元気消失、食欲不振を主訴に来院。初診時に可視粘膜の蒼白および黄疸を認めた。心拍数 176 回/min、呼吸数 88 回/min で、聴診では Levine II / VI の心雑音が聴取された。〔図 21 - A 〕は血液検査結果、〔図 21 - B 〕はスライドグラス上で血液と生理食塩水を混合したものの顕微鏡像 (× 400)、〔図 21 - C 〕は末梢血塗抹像 (ライトギムザ染色、× 1,000) である。また、クームス試験は陽性であった。

別冊 D  
図 21 - A, B, C

問41 本症例で最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 犬糸状虫による後大静脈症候群
2. 急性白血病
3. 赤芽球瘍
4. *Babesia gibsoni* による溶血性貧血
5. 免疫介在性溶血性貧血

問42 本疾患に対する治療薬として適切なのはどれか。

- a シクロスポリン
- b プレドニゾロン
- c ジミナゼン
- d ミルベマイシンオキシム
- e ドキソルビシン

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題22** 次の文を読み、問 43、問 44 に答えよ。

犬、ヨークシャー・テリア、雄、4 か月齢。ソファから飛び降りた後、左前肢を挙上しているとのことで来院。前腕から手根部にかけての X 線検査を行ったところ、〔図 22〕のように橈骨遠位部での成長板骨折が認められた。

別冊 D

図 22

**問43** 本症例の成長板骨折はソルターハリス分類のどの型か。

1. I 型
2. II 型
3. III 型
4. IV 型
5. V 型

**問44** 本症例に対する内固定法として最も適切なのはどれか。

1. プレート固定法
2. クロスピン法
3. テンションバンドワイヤー法
4. ラグスクリュー法
5. 髄内ピン法



課題23 次の文を読み、問 45、問 46 に答えよ。

〔図 23〕はある人獣共通感染症病原体の感染様式である。

別冊 D 図 23
--------------

問45 この感染症はどれか。

1. リフトバレー熱
2. トキソプラズマ症
3. ペスト
4. コクシジオイデス症
5. ライム病

問46 本疾患の感染初期におけるヒトの特徴的な症状はどれか。

1. 膿瘍形成
2. 出血性黄疸
3. 嚥下障害
4. 遊走性紅斑
5. 腹痛

課題24 次の文を読み、問 47、問 48 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、4歳齢。〔図 24 - A〕は分娩後 40 日のフレッシュチェックのために膣検査を行っているところである。直腸検査では子宮が左右対称性に腫大し、波動感を認めた。〔図 24 - B〕は経直腸超音波検査による子宮断層像である。

別冊 D  
図 24 - A, B

問47 最も疑われる疾患はどれか。

1. 子宮水症
2. 子宮粘液症
3. 子宮蓄膿症
4. 子宮頸管炎
5. 子宮内膜炎

問48 この疾患の治療として適切なのはどれか。

- a 子宮摘出術
- b  $\text{PGF}_{2\alpha}$  の筋肉内投与
- c 子宮洗浄と抗菌薬の子宮内投与
- d プロジェステロン放出腔内留置製剤の腔内投与
- e GnRH の筋肉内投与

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題25 次の文を読み、問 49、問 50 に答えよ。

犬、ヨークシャー・テリア、避妊雌、13 歳齢。慢性の咳と呼吸困難を主訴に来院。  
〔図 25 - A〕は吸気時、〔図 25 - B〕は呼気時の胸部 X 線側方像である。

別冊 D  
図 25 - A, B

問49 最も疑われる疾患はどれか。

1. 肺水腫
2. 肺腫瘍
3. 気管虚脱
4. 気胸
5. 乳び胸

問50 本症例に対する治療として適切なのはどれか。

- a 外科手術
- b 利尿薬の投与
- c 抗炎症量のグルココルチコイドの投与
- d 鎮咳剤の投与
- e 胸腔穿刺

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題26 次の文を読み、問 51、問 52 に答えよ。

犬、フラットコートド・レトリバー、未去勢雄、7 歳齢。進行性の右前肢跛行と右肘関節周辺の腫脹を主訴に来院。〔図 26 - A 〕は右前肢の X 線側方像、〔図 26 - B 〕は腫脹部の細針吸引細胞診像（ギムザ染色、× 1,000 ）である。

別冊 D  
図 26 - A, B

問51 最も疑われる疾患はどれか。

1. 組織球性肉腫
2. 横紋筋肉腫
3. 骨肉腫
4. 軟部組織肉腫
5. 滑膜肉腫

問52 本疾患に関する記述として適切なのはどれか。

- a 好発犬種がある。
- b 犬の滑膜・関節周囲腫瘍で最も多い。
- c 転移することはまれである。
- d 患肢断脚により根治が見込まれる。
- e NSAIDs 投与により腫瘍が縮小することが多い。

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

**課題27** 次の文を読み、問 53、問 54 に答えよ。

牛、ホルスタイン種、雌、3歳齢。3か月前に分娩。食欲不振、乳量減少、脱毛を主訴に診察を受けた。〔図 27〕は頸部から肩部にかけての脱毛部である。

別冊 D

図 27

**問53** 本症例の皮膚病変として最も疑われるのはどれか。

1. 蕁麻疹
2. 光線過敏症
3. 接触性皮膚炎
4. デルマトフィルス症
5. 皮膚型牛白血病

**問54** 本症例の基礎疾患として考慮すべきなのはどれか。

1. 脂肪肝
2. 肝線維症
3. 肝膿瘍
4. ビタミン A 欠乏症
5. 腎盂腎炎

課題28 次の文を読み、問 55、問 56 に答えよ。

猫、雑種、雌、8歳齢。最近元気がなくなったとの主訴で来院。〔図 28 - A〕は顔面部の外貌、〔図 28 - B〕は末梢血塗抹像（ライトギムザ染色、×1,000）である。

別冊 D  
図 28 - A, B

問55 最も疑われる疾患はどれか。

1. 猫伝染性腹膜炎
2. 猫フォーミーウイルス感染症
3. 猫ウイルス性鼻気管炎
4. 猫白血病ウイルス感染症
5. 猫汎白血球減少症

問56 本疾患の検査として適切なのはどれか。

- a ペア血清を用いた中和抗体価の上昇の確認
- b 培養細胞を用いた分離試験における封入体形成の確認
- c 血液検査による高グロブリン血症の確認
- d PCR による病原ウイルスの遺伝子検出
- e 病原ウイルスのコアタンパク質抗原検出

1. a, b      2. a, e      3. b, c      4. c, d      5. d, e

課題29 次の文を読み、問 57、問 58 に答えよ。

豚、ランドレース種、雌、6 か月齢。臨床的には無症状であったが、食肉検査時に腸壁がホース状に肥厚していた。〔図 29 - A〕は結腸の病理組織像（HE 染色）、〔図 29 - B〕は同組織のワルチン・スターリー染色像である。

別冊 D  
図 29 - A, B

問57 原因菌はどれか。

1. *Brachyspira pilosicoli*
2. *Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*
3. *Bacillus anthracis*
4. *Escherichia coli*
5. *Lawsonia intracellularis*

問58 本疾患に関する説明として適切なのはどれか。

1. 慢性期には高度な出血を認める。
2. 未分化な陰窩上皮細胞が腺腫様に異常増殖する。
3. 病変部では杯細胞が過形成を示す。
4. 陰窩上皮細胞由来の腫瘍細胞が異常増殖する。
5. 急性・慢性を問わず、粘膜固有層に高度な好中球浸潤を認める。

**課題30** 次の文を読み、問 59、問 60 に答えよ。

犬、ラブラドル・レトリバー、避妊雌、6歳齢。半年前から後肢がつまずくようになり、最近ふらつくようになってきたとのことで来院。神経学的検査を行ったところ、前肢は正常であったが、後肢は下位運動ニューロン徴候が認められた。〔図 30 - A〕は腰部 X線側方像、〔図 30 - B〕は腰部 MRI T2 強調像である。

別冊 D  
図 30 - A, B

**問59** 最も疑われる疾患はどれか。

1. 椎間板ヘルニア
2. 椎間板脊椎炎
3. 椎体腫瘍
4. 変性性腰仙椎狭窄症（馬尾症候群）
5. 椎体骨折

**問60** 本疾患に対する手術法として最も一般的なのはどれか。

1. 腹側減圧術
2. 背側椎弓切除術
3. 椎間板造窓術
4. 椎弓形成術
5. 椎体切除術









